

(3) キャリア教育研究グループ

ア. 研究主題

「キャリア発達の視点をういた小・中・高つながりのある指導」

イ. 研究主題設定の理由

研究主題を設定するにあたり、本校のキャリア発達を促すための教育活動がどのように取り組まれているかという現状を把握するために、各学部取り組みと、現状の課題について意見交流を行った。

意見交流では、本校のキャリア発達を促すための教育活動は、各教科・領域、年2回の就労体験学習、進路学習、校外学習等で取り組んでいることが確認された。また、個別的教育支援計画、個別の指導計画等を作成する際には、キャリア教育全体計画を参考にとしながら、作成していることも分かった。

しかし、小学部から高等部までのつながりや、学校全体でどのような指導・支援をどの場面で、どのように行っているのかが分かりにくく、継続した指導につながりにくいといった現状が見えてきた。

また、病院での生活が長いなどの理由から社会経験が乏しい児童生徒が多いこと、学校・社会・夢・将来とつなげる中で、病院で医療を受けながら生活をつづける児童生徒も多くいることから、自分が目指す社会人像とはどのようなものか、自分の人生について考えるための教育活動について整理し、実践する必要があるのではないかという意見も出てきた。

そこで、まず、何をどのような時期に学んでいくのが良いのかということを学部ごとに整理し、小学部から高等部までのつながりのある指導を明確にすることで、指導の充実につなげていくことができるのではないかと考えた。また、指導が充実することにより、児童生徒一人一人が、自分らしい生き方を見つけ実践していくことにもつながっていくのではないかと考え、この主題を設定した。

ウ. 研究仮説

将来を見据えた小・中・高のつながりのある指導ができれば自分らしい生き方につなげることができるのではないかと考えた。

エ. 研究の内容、方法

今回の研究では、小・中学校、高等学校に準ずる教育課程（以下A類型と表記）を基本としている児童生徒のキャリア発達を考えていくこととした。

研究方法としては2点で進めていく。

1 点目は、小学部から高等部までのつながりのある指導について明確にすることである。これについては、ワークショップで作成した「身につけさせたい力」のまとめを活用し、各学部のA類型の児童生徒について、その学部を卒業するまでに、身につけさせたい力を具体的にし、学ぶ時期や、学部間のつながりを再検討し並べ替え、つながりを意識できるように、一覧表として整理することにした。

2点目は、授業実践による検証である。これについては、キャリア発達を促す教育活動の視点から身につけさせたい力を整理し、学部間のつながりを意識した上で、中学部、高等部で授業を行うことで、指導の充実につなげることができるかということを検証していくこととした。

オ. グループの研究推進計画

7月	グループテーマ、研究内容、方法決定
8月	卒業後までに身につけさせたい力を各学部で整理
9月	卒業後までに身につけさせたい力を各学部で整理
10月	各学部で整理した内容を交流
11月	つながりを意識した学習についての検討（指導案作り）
12月	研究授業 研究のまとめ

カ. 研究の実際

（ア）一覧表の作成について

キャリア発達を促す教育活動の観点から身につけさせたい力を考えていくとき、高等部卒業後、青年期、壮年期、高齢期というライフステージでのキャリア発達を見据え、そこへたどり着くために、中学部卒業時、小学部卒業時、ではどのような力を身につければ良いのかという視点で、各学部で取り組む課題を見直した。

その中で、高等部を卒業するまでに身につけさせたい力を考え話し合ったとき、高等部で行っている現在の自分、過去の自分の振り返りなどは、中学部までに身につけておいた方がよいのではないかなどの意見が出され、各学部で行っていることが、その前に在籍している学部で身につけた方が良いと思われるものが含まれていることが分かった。

そこで、ワークショップで作成した身につけさせたい力のまとめを元に、グループ内の小学部、中学部、高等部の教員で話し合い、A類型児童生徒を対象にした身につけさせたい力の中で、他学部の段階で取り上げた方が良いことを確認し、その結果を一覧表にした。また、その表の中で、小学部、中学部、高等部の学習のつながりがどのようになっているかについてを可能な範囲で整理した。一覧表は、現在制作中で年度内の完成を予定している。

今後は、この一覧表を活用するなどして、学校全体で現状と課題を踏まえ、身につけさせたい力を再検討したり、小学校、中学校、高等学校において実施されているキャリア教育の目標との整合性を図るための再検討を行ったりしながら、身につけさせたい力を整理し、本校のキャリア発達を促すための教育についての具体的な指針につなげていくことが必要ではないかと考える。

（イ）実践授業による検証

①授業に関わる経緯

一覧表を作成しながら、キャリア発達を促す教育活動を整理する一方で、学部間のつながりのある指導を実施していくためには、どのような授業を展開させていくことが良いかを検討した。

今回は、教員が課題を感じているキャリアプランニング能力にかかわる力を身につける授業について、研究授業を行っていくこととした。

高等部で身につけさせたいキャリアプランニングにかかわる力は「将来のイメージ（自分の姿）をもっている」「卒業後から、青年期・壮年期にかけてどのような活動や生活をしていきたいかライフプランをもっている」、それにつながる前段階の内容として、中学部で身につけさせたい力は「自分の将来やライフサイクルについてのイメージをおおまかに持っている」ではないかということグループ内で確認し、研究対象とする授業は、自分の進路についての意見を述べ合う授業とした。

これらの力が身につくような授業内容を検討した際、身につけさせたい力を改めて意識し、各学部で学習することもよいが、中学部と高等部の生徒と一緒に学習することで、更に良い効果を得られるのではないかという意見が上がった。

具体的な利点は、中学部の生徒は、ポートフォリオを発表することで自分の進路についての考えを明確にすることができる、自分の考えについて先輩からのアドバイスをもらうことにより、多面的な考え方につなげることができるといったことが上げられる。

また、高等部の生徒については、ポートフォリオを発表することで、自分の進路についての意見を明確し、自分ができていないところを自覚し、改善につなげられることや、後輩へのアドバイスをする中で、自分自身を振り返るきっかけにもなるといったことが上げられる。

そこで、今回は、中学部、高等部の合同授業という形で行うことにした。

②研究授業の成果と課題

・成果

授業についての成果は高等部、中学部それぞれで見られた。

高等部については、ポートフォリオを作成する中で、「中学校時代にもう少し自分の進路の方向性を具体的に考えていれば、高校1年生ですぐに専門的に学ぶことができたのではないか」、「自分のやりたい活動について、中学校時代にたくさん試しておけば良かった」など自分の過去を振り返り、中学部の後輩にアドバイスを考えるとともに、今後の自分の行動について、考えるきっかけを作ることができた。

また、感想シートから「仕事についてもう一度考えてみようと思う」、「自分の進路についてももう一度考えてみたいと思う」、「体力的なことを考えると、病院に残ることも必要だと思った」など、友達や先輩のアドバイスや質問、意見を聞き、自分の生き方、将来の活動について見つめ直す機会にもなった。

さらに、本校のように児童生徒数が少ない学校では、先輩や後輩という異年齢集団での学び合い、病気療養を続ける生徒同士での気持ちの共感という視点からも重要な学び合いの場になることができた。

中学部については、高校進学に向けて、将来の夢を整理することで、進学の目的や、中学部の段階で頑張ることを明確にすることができた。

また、高等部の生徒の発表や意見を聞くことで、様々な視点から将来を考えることや将来の夢が変わっていくこともあることを知り、多面的な視点をもつことにつなげることができた。

生徒の感想からは、「自分とは違う意見が聞けて良かった」「高校に向けてパソコンを頑張りたい」など、これまでの「高校には行きたい」「みんなが行っているから」などの意見から、より具体的に進路についての考えを深めることにもつなげることができた。

今回の学習ではつながりを意識した授業が展開できたと評価はできないが、何を意図し、どこにつながっていくかを意識した上で指導していくことは何らかの効果が期待できると思われる。また、自分の過去、未来を考えることや多面的な視野で自分の意見を修正していく糸口としては、他学部の生徒と合同で学習することは有効ではないかと思われる。

・課題

課題については2点ある。

1 点目は、生徒の自主性に関することである。授業を通して、自分の進路についての考えを整理し、深めることはできたが、自分の進路についての夢や希望を実現させるために具体的な計画を立てる力、行動していく力、改善に向けて自主的に取り組んでいく力については、どのように身につけていくかについて検討が必要である。

2 点目は中学部においてのみであるが、目標設定についてである。検討を重ね、現在の状況に応じた個別の目標を立て学習を行った。学習としては一定の成果も上がった。しかし、生徒の学習の様子から考えると、更に難しい目標でもよかったのではないかと思われることもあり、より適切な目標設定については課題が感じられた。今後は、学習の系統性や、各学年、学部にあった目標になっているかという点を再度確認し、それを踏まえ上で目標を立てていく必要があると思われる。

キ. 成果と課題

一覧表を作成した際に、本校のキャリア教育に関わる現状を小学部、中学部、高等部で交流し、お互いの学習内容や目標についてのとらえ方の違いを確認し、それぞれの現状を把握することができた。グループ内で話し合い、小学部、中学部、高等部で実態の交流を行ったことで、育てたい力をより明確に理解することにもつながった。

また、研究授業では、目標のつながりを教師が意識することで、学習内容や学習方法を見直し、中学部、高等部の合同学習を行った。授業後には、生徒に変容も見られ、一定の成果をあげることができた。

しかし、一覧表を作成した際に、キャリア発達についてのイメージに違いがあり、グループ内の話し合いで、意見が分かれ、一覧表を作成することに時間がかかった。また、グループ内でもキャリア教育や育てたい力の全ての項目について、イメージの共有を図ることは難しかった。キャリア教育についてのイメージの共有をどのように計っていくかということが、今後の課題ではないかと思う。

総合的な学習の時間 学習指導案

【日 時】	平成 29 年 12 月 7 日（木） 4 校時
【場 所】	プレールーム
【学部・学年】	中学部 1・2 年 1 組 高等部 1・2・3 年 1 組
【生徒数】	男子 5 名 計 5 名
【指導者】	MT：鈴木奈都 ST 1：小倉健太 ST 2：水谷徳次郎

【校内研究グループ名】 キャリア教育研究グループ

1. 単元名 「進路の学習」

2. 単元・題材設定の理由

(1) 児童・生徒観

【中学部】

生徒 2 名は、準ずる教育課程で学んでいる。教科や内容に応じて 2 名で授業を行っているが、個別の教科が多い。お互いの仲は良く、良さを認め合おうとすることや一緒に活動することは意欲的であるが、苦手なことや将来のことなどに関しては話す様子は少ない。今年度の 4 月から 2 人で行う教育活動を繰り返し行う中で、良さに合わせてお互いに切磋琢磨しようとする様子が増えてきていることから多角的に相手について考えることが増えてきている。

進路について、2 名とも自分の好きなことを将来につなげたい希望は共通してもっているが、実現に向けて具体的に考えるところまでは至っていない。これまでの学習を通して、自分の興味を広げることで職業について多面的に考え、高等部進学について目的を考え始めているが課題が残る。

【高等部】

生徒 3 名は、準ずる教育の教育課程で学んでいる。教科によっては 3 名で授業を行っているが、個別の教科も多い。SHR、HR、総合的な学習の時間では、3 名で話し合う場面を多く設定し、4 月に比べると、笑顔で会話を楽しむ様子も見られ、3 人での話し合いや合意形成ができるようになってきた。

しかし、自分の考えに固執し、人の意見を取り入れたり、素直に受け止めたりすることが難しい、物事を批判的に捉える傾向がある、自分の意見をすぐに伝えることが難しい実態があり、物事を様々な視点で考えることに課題がある。

さらに、高等部1組の生徒全般の傾向として、自分の夢・希望は持っているが、その夢を叶えるための主体的に行動することが難しく、夢・希望と行動・学力が結びつかない、障がいの進行に伴う喪失体験などから自分の夢や希望、活動をあきらめてしまう傾向がみられる。

(2) 教材観

【中学部】

学級活動中心に総合的な学習の時間や自立活動を通して進路学習に取り組んでいる。その中で、自分の良さや互いの良さを認めあう活動を通して、自尊感情の向上と将来の夢について具体的に考え始める活動を中心に行ってきた。本単元では、これまでの自分たちの将来について考えを深めた内容をまとめ、発表することで自らの目標の整理を行い、友達や先輩の考えを知ること、将来について多面的に考える機会としたい。

【高等部】

総合的な学習の時間では「社会とつながる」という単元の下、社会に出るために必要な知識、社会人とは何か、社会人として一人で生活するために必要なこと、自分たちが知っておいた方がよい法律等を学び社会人についての知識や理解を深めてきた。このような一連の学習のまとめとして、自分の進路についての考えを整理するために、ポートフォリオづくり、プレゼンテーション（発表・意見交換）の機会を設定した。ポートフォリオづくりでは、自分の経験、体験に言葉を入れて整理し、考えをまとめる。プレゼンテーションでは、他者からの意見等を受け、自分の生き方についての考えを深めて欲しいと考えている。

【中高共通】

本題材では、様々な視点で（肯定的、否定的、客観的な思考など）で自分の意見を考えることを経験させるために、プレゼンテーションを聞いたあとに、意見カードに記入し、自分の意見を発表するという手順にしている。これらの活動を通して、「ものの考え方」、「自己の生き方を考える力」を育みたい。

(3) 指導観

【中学部】

中学部から高等部までの目標に応じた学びを深めるために、合同での学習を計画した。生徒同士による学び合いを設定することで、中学部から高等部への気持ちの変化や考え方の多様性と個性について知ること、中学部卒業後の進路や生き方について考えを深める機会としたい。

【高等部】

高等部では進路の学習は個別に行うことが多く、他生徒の考えを聞く、話す機会はほとんどない。生徒同士の学び合いや意見交流から自分の考えや進路について見つめなおし、自分らしい人生についての考えを深め卒業後の社会生活、青年期・壮年期像を考える機会としたい。

【中高共通】

今回の授業では進路の学習を合同で学習することにより、自分の将来像に対するイメージを膨らませる、高等部進学の意味を考える、自分の進路についての悩みを伝えたり、他の人の悩みを聞いたりしながら、自分の考えを見つめ直し、自分の人生について思いをめぐらせる、自分の小中学生時代を客観的に振り返り、後悔していることやメッセージを伝えることにより、この学校の先輩としての役割を果たす、今の自分、将来の自分を考える機会にできればと考えている。

3. 研究グループで立てた研究仮説

【キャリア教育グループ】

研究主題 「キャリア発達の視点をういた小・中・高のつながりのある指導」

研究仮説 「将来を見据えた小・中・高のつながりのある指導ができればより豊かな生活、自分らしい生き方につなげることができるのではないか」

本校の進路指導、キャリア発達を促す指導は、キャリア教育の全体計画から、教育支援計画や個別の指導計画等を作成するために参考にされ、各学部で支援・指導はしているが、小学部、中学部、高等部までのつながり、どのような支援・指導をどこで、どのように行っているのかが見えにくい傾向がある。自分の生き方、在り方、将来の夢や希望についての支援・指導は、どの段階で何を学ばせたら良いのだろうか。児童生徒のキャリア発達段階を把握し、どのような姿を児童生徒に望み、そのために何をどのように学ばせ、支援したらよいのだろうか。そして、その支援・指導が小学部から高等部までつながるものにするためにはどのようにしたら良いのだろうか。

キャリア発達を促す支援は、自己の生き方、在り方を自分自身で考える機会となる学習であり、それは小学部から高等部、社会人まで一連のつながりのある学びの連続である。児童、生徒一人一人が自分らしい生き方を考えることができるようにするために、私たちは必要な支援・指導として進路の合同学習を計画した。

研究グループで作成した卒業後に望む姿、中学部段階の「自分の将来やライフサイクルについてのイメージを大まかに持っている」から高等部段階の「卒業後から青年期・壮年期にかけてどのような活動や生活をしていきたいかライフプランを持っている」へつなげていくための指導・支援をどのようにしていくかを考える授業実践にしたい。

4. 教科及び単元・題材における児童・生徒の実態

児童 生徒 学年	病名／ 障害種	実 態
A 中学部 1年	DMD	・他者と話し合う中で自分の考えを深め、整理することができる。 ・自分を見つめなおすことに抵抗があり、否定的に物事を捉えやすい。
B 中学部 2年	DMD	・相手のことを考えてアドバイスを送ったり、手伝ったりすることに意欲的である。 ・自分の気持ちや考えを表すことに抵抗がある。
C 高等部 1年	DMD	・単元の学習では、どの学習も真剣に取り組む、長期休業中には地元の事業所について調べ、まとめるなどの主体的な活動も見られる。進路については、興味・関心を基に進学も考えている。 ・考えをまとめ、伝える場面では、肯定的に物事を捉えることが多い。
D 高等部 2年	DMD	・単元の学習ではどの学習も真剣に取り組む様子が見られる。進路については自分の適性を調べ自己理解を進めながら、就労や活動など模索していたが、継続療養に進路変更になり一時意欲が低下している場面も見られる。考えをまとめ伝える場面では否定的に物事を捉えることが多い。

E 高等部 3年	DMD	・単元の学習では、どの学習も意欲的に取り組む様子が見られる。3年生ということの焦りや就労にこだわる気持ちから、学習に手がかからないなども様子も一時見られたが、現在は将来の夢に向かい、普段の学習等、意欲的に取り組めるようになってきている。 ・考えをまとめ、伝える場面では、否定的に物事を捉えることが多い。
----------------	-----	--

5. 教科及び単元・題材における児童・生徒の目標

児童・生徒 学年	目 標
A 中学部 1年	・中学校生活に適応し、新しい人間関係を作ることができる。 ・将来の自分について、様々な職業の世界を知り、卒業後の自分を考えることができる。
B 中学部 2年	・中学校生活を充実させ、集団生活の質の向上を図ることができる。 ・将来を現実的に模索することができる。
C 高等部 1年	・これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、これからの自分の生き方を考えることができる。 ・他の人の発表を聞き、それに対して様々な視点で課題を捉え、自分の考えをまとめ、伝えることができる。
D 高等部 2年	・これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、これからの自分の生き方を考えることができる。 ・他の人の発表を聞き、それに対して様々な視点で課題を捉え、自分の考えをまとめ、伝えることができる。
E 高等部 3年	・これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめ、これからの自分の生き方を考え、人に伝えることができる。 ・他の人の発表を聞き、それに対して様々な視点で課題を捉え、自分の考えをまとめ、伝えることができる。

6. 単元指導計画

【中学部】進路の学習（11月～12月）

- ①将来の夢について調べ学習 1時間
- ②将来の夢のまとめ 1時間
- ②就労体験学習（2回目）事前学習 1時間
- ③就労体験学習 6時間

④プレゼンテーション・意見交換 2/2時間（本時）

- ⑤事後学習 1時間

【高等部】社会とつながる（4月～7月）

- ①社会人について調べる 5時間
- ②卒業生の講演 2時間
- ③就労体験学習事前学習 2時間

④就労体験学習 6時間

校外学習（ハローワーク八雲）（9月）

①事前学習 1時間

②校外学習 3時間

③事後学習 1時間

進路の学習（11月～12月）

①ポートフォリオについて 1時間

（ポートフォリオ作成は自立活動、HRを使い作成）

②就労体験学習（2回目）事前学習 1時間

③就労体験学習 6時間

④プレゼンテーション・意見交換 2/2時間（本時）

⑤事後学習 1時間

7. 本時の指導

8. (1) 本時の目標

他者の進路についての考えを知り、自分の意見を考え、伝えることができる。

(2) 本時の個別指導目標

児童 生徒 学年	目 標
A 中学部 1年	・将来の夢について、内容を整理して発表することができる。 ・他の人の発表を聞き、様々な生き方や考え方について知ることができる。
B 中学部 2年	・他の人の発表を聞き、それぞれの考え方について肯定的、否定的な視点で考えることができる。
C 高等部 1年	・他の人の発表を聞き、それに対して否定的、客観的な視点で考えることができる。
D 高等部 2年	・他の人の発表を聞き、それに対して肯定的、客観的な視点で考え、伝えることができる。
E 高等部 3年	・他の人の発表を聞き、それに対して肯定的、客観的な視点を持ち、自分の考えを伝えることができる。

(3) 本時の展開

時程	学習内容	生徒の活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
導入	・あいさつ ・前時の振り返り	・ホワイトボードに示してある資料を見ながら全時を振り返る。	・資料を簡単に説明し、前時を振り返る。	・ホワイトボードに生徒のパワーポイントを貼っておく。

	・ 本時の確認 ・ 目標の確認	・ 本時の流れ、ルール、司会者、目標を確認する。	・ 一人 15 分以内（発表 5 分、意見交換 10 分）の活動で司会が時間を見て内容を区切ることを伝える。	
	・ 発表	・ 司会者（生徒 E）は発表、意見交流の場面で司会とまとめ役を行う。 ・ 生徒 A 発表 ① プレゼンの発表（5 分） ② 発表を聞く。 ③ ワークシートを使い、自分の意見・質問をまとめる。（1 分から必要に応じて設定） ④ 意見交流 自分の質問・意見を伝える。友達の質問・意見を聞く。 発表者は質問・意見に答える。 ⑤ 発表者の感想（10 分） ・ 生徒 D 発表 ①～⑤繰り返し	・ MT は司会者の活動を支援する。 ・ MT は、ホワイトボードを参考に意見を記入するように促す。 ・ 板書役の ST 2 が意見をホワイトボードに記入する。 ・ 意見が出にくいときはホワイトボードの内容を中心に MT が話題提供をする。	・ MT、ST 1 はシートに書けない生徒がいた場合に言葉かけをして発言をまとめる補助をする。 ・ 肯定的な意見しか出てこない場面では、否定的、客観的な視点で考え教師が支援する。（高） ・ 意見がどうしても出ない生徒がいた場合、まとめや今後の進路学習で教師と一緒に考えを整理する時間を設ける。（中）
まとめ 5 分	あいさつ	・ 感想をまとめる ・ 振り返り	・ 振り返りの中で次時予定を伝える。	・ 生徒の意見交流の内容を簡単にまとめ伝える。

（４）教材・教室配置 別紙

【意見シート】中学部、高等部それぞれ（別紙）

（５） 本時の評価

① 生徒の評価

・ 多面的に意見を捉え、自分の考えをまとめることができたか。（全生徒）

【評価方法 生徒同士の発表やワークシートの内容から各目標を達成できたか評価する】

(授業者評価)

- ・シート、発表の様子、発言、意見の記入から多面的に意見を捉え、考えることができた。

② 教師側の指導上の評価

- ・相手の意見から多面的に捉えられるように、指導、助言ができたか。
- ・中学部生徒、高等部生徒がそれぞれ進路学習を深めることができたか。

(授業者評価)

- ・工夫して深めるように設定したが、発言、行動、表情、意見が変わった様子から、目的は達成されたと考えている。

授業参観・研究協議のポイント

- ・多面的な思考で物事を考えられるための手立てとしては有効だったか。
- ・小・中・高をつなぐキャリア発達支援の実践のアイディア

(6) 授業研究成果と課題

【成果】

(高等部) ポートフォリオを作成する中で、自分のこれまでの考えを振り返り、「中学校時代にもう少し自分の進路の方向性を具体的に考えていれば、高校1年生ですぐに専門的に学ぶことができたのではないか」、「自分のやりたい活動について、中学校時代にたくさん試しておけば良かった」など自分の過去を振り返り、中学部の後輩にアドバイスを考えるとともに、今後の自分の行動について考えることができた。また、感想シートから「仕事についてもう一度考えてみようと思う」、「自分の進路についてもう一度考えてみたいと思う」、「体力的なことを考えると、病院に残ることも必要だと思った」など、友達や先輩のアドバイスや質問、意見を聞き、自分の生き方、将来の活動について見つめ直す機会になったと考えている。

さらに、本校のように児童生徒数が少ない学校では、先輩や後輩という異年齢集団での学び合い、病気療養を続ける生徒同士での気持ちの共感という視点からも重要な学び合いの場になったと考えている。

(中学部)

(成果) 高校進学に向けて、将来の夢を整理することで、進学の目的や中学部の段階で頑張ることを明確にすることができた。また、高等部先輩からの発表や意見を聞くことで、様々な視点から将来を考えること、夢も移り変わることがあることを知り、多面的な視点を養うことにつながることができた。

【課題】

(中・高共通課題)

- ・学習を通して、自分の進路についての考えを整理し、深めることはできたが、それについての計画と主体的な行動には課題がある。
- ・目標設定について学習指導要領、個別の指導計画等を参考に検討を重ね、学習としては一定の成果も上がったが、学習の様子から考えると適切な目標設定については課題が残る。